

農事組合法人 なかすじ設立



原口自治会にある中條集落の住民で組織する農事組合法人なかすじの設立総会が3月9日、雲州そろばん伝統産業会館で開催されました。

中條集落ではこれまで、任意の集落営農組織である中條営農組合で協力して営農を続けてきました。しかし近年、高齢化のため耕作されなくなることが懸念される農地が増加しており、地域の将来を見据え、集落のみならず昨年からの農地の受け皿となる法人を設立する検討を重ねてきました。

設立総会では、設立発起人代表の森田一さんのあいさつの後、支援機関として島根県東部農林水産振興センター雲南事務所農業部の古川部長、奥出雲町系原町長、島根県農業協同組合雲南地区本部源本部長から祝辞があり、その後、第1号議案から第5号議案までの議案が滞りなく承認され、法人が設立されました。



仲佐英哲副町長 就任あいさつ



このたび、町議会におきましてご同意を賜り、4月1日付で奥出雲町副町長に就任いたしました。

私は、島根県職員として28年間勤務し、その間、健康福祉行政のほか、農業や地域振興、雇用対策などに携わってまいりました。こうした経験を活かし、糸原町長をしっかりと補佐し、奥出雲町の発展に向けて、誠心誠意、全力を尽くす覚悟でございます。

島根県の市町村、とりわけ中山間地域では、少子高齢化や若者の転出に伴う人口減少が続いており、奥出雲町におきましても、地域の担い手不足や生活機能の確保、経済の縮小といった喫緊の課題に直面していると認識しております。

他方で、奥出雲町には、豊かな自然や伝統文化、産業など、さまざまな魅力と強みを持つ地域資源がございます。

そして何より、人と人のつながりと、そこに根差した温もりのある暮らしが残る、こころ豊かな町であると考えております。

これまで、町民の皆様が守り育ててこられました地域の財産や人のつながりを大切にしながら、町内外の方にとって一層魅力のあるまちづくりに向けて、町民の皆様のご指導とご鞭撻を賜りますようお願い申し上げます。就任のご挨拶といたします。

藤原努副町長 退任



行政各般にわたりご尽力いただきましした藤原努副町長が3月31日に退任されました。

藤原副町長は、令和2年4月の就任以来、町職員として37年間在職された経験と知識をもって、4年にわたり町政運営にご尽力いただきました。

副町長就任時は、新型コロナウイルス感染症が拡大し、緊急事態宣言が発出された頃で、町内の感染拡大防止に努められたほか、国の臨時交付金を最大限に活用され、町民への迅速な給付と事業者への事業継続に向けた支援にあたり、率先して陣頭指揮を執られました。また、第三セクター全体にかかる在り方検討においても、独立採算の原則を果たせるよう、委員会の先生方と精力的に意見交換をされました。

藤原副町長は、退任に際し、「奥出雲町は食や自然など、地域資源に恵まれていることを、度々町外の方からお聞きします。これらの地域資源が更に脚光を浴び、奥出雲町が益々発展することをご祈念申し上げます。」と話されました。

一般財団法人地域活性化センター×奥出雲町 地方創生に向けた人材育成に関する連携協定締結式

地方創生に向けた人材育成に関する連携協定締結式が3月6日に役場仁多庁舎であり、一般財団法人地域活性化センターと奥出雲町が協定を結びました。

同センターは、『地域づくり11人づくり』をモットーに、人口減少や高齢化に直面している自治体において、地域の核となる人材を育成するノウハウを提供しています。

本町は、すでに昨年12月からスタートした若い世代が未来に対して対話できる場「おくいずも未来会議」の支援をしていたっており、まちづくりの担い手の育成を行っているところです。

今後は、地域住民の目線で働くことができ、地域の課題を解決できる役割職員の育成や他自治体との交流・情報交換等を行うこととなります。



ありがとう鳥上小学校

鳥上小学校閉校式・閉校行事が3月23日、児童、卒業生、地域住民など約200人が出席し、同校体育館で行われました。

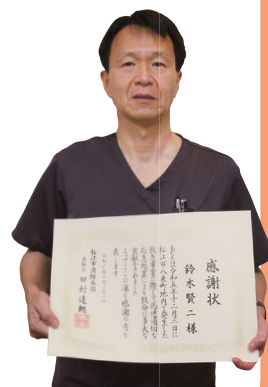
式では、糸原保町長が「今日までの歴史や伝統、地域の崇高な精神は新たな横田小学校へ引き継がれるものと確信しています」と式辞を述べ、加藤春生校長は「歩んできた歴史は未来永劫、鳥上を愛する人に語り継がれる」とあいさつ。学び舎への思いをはせながら出席者全員で校歌を高らかに歌いあげた後、加藤校長から糸原町長に校旗が返納され、厳かに150年の歴史を閉じました。

続いて行われた閉校行事では、「閉校に向けて私たちにできること」と題した児童の発表や太鼓演奏、地元有志グループが合唱を披露しました。



加藤春生校長(左)から糸原町長に校旗を返納

町立奥出雲病院 鈴木院長 松江城マラソンで人命救助



令和5年12月に松江市で開催された「国宝松江城マラソン2023」でうつ伏せの状態で心停止となっていたランナーに反応や呼吸の確認、胸骨圧迫、AEDにより救命処置に当たったランナー6名とボランティアスタッフ2名が、3月21日に松江市消防本部で、松江消防長から表彰を受けました。

措置に当たったランナー6名のうち、3名が医師であり、その1人は町立奥出雲病院の鈴木賢二院長でした。

目標タイムを設定して挑んだ大会が、目の前で倒れたランナーを救うため、救命措置を行い、再びゴールを目指して見事に完走をされました。

鈴木院長は、「大会中も、その後も、処置を行った方がどうなったか心配をしていましたが、無事に社会復帰されたと聞き嬉しかったです。」と話されました。

自衛隊入隊予定者 激励式

今春より自衛隊員として働く奥出雲町出身者に対し、自衛隊入隊予定者激励会が3月19日に役場仁多庁舎で行われました。本町から、小早川尚耶さんが自衛隊に入隊されます。

小早川さんは「常に平常心で初心を忘れず努力します。災害派遣等で人を助けられる存在になりたいです。」と話されました。今後、小早川さんは、愛媛県松山駐屯地で3カ月の間、同期と共に訓練を受けられます。

祝 自衛隊入隊予定者 激励会



小早川尚耶さん(中央)と関係者